



## 馬耳東風

豊かな社会とは、国民の大多数が生きることに関心なく、安心して文化的生活を送れる社会のことであろう。それは経済的、時間的にゆとりがあり、健康で余暇を楽しめる生活環境が整って初めて実現できることである。70年余の風雪を経て社会が成熟期に入った今、物が溢れる社会に到達したが、そこには真の豊かさ、心の豊かさを実感できる社会は無かった。そこには生きることのすべてが効率化という大きなうねりに翻弄され、不安と不満が蓄積した社会があった。その実情は、様々な格差が増幅し、人心は荒び、地域社会での住民の絆は失われ、子供の教育、高齢者の介護など様々な問題を抱える社会であり、希望を失う若者、過酷な労働に因り心身を消耗する人、生活苦から家族を道連れに自死の道を選ぶ人が後を絶たない等、豊かな社会とは程遠い社会であった。多くの若者たちが将来に対する夢を持たず、結婚もできない状況を見ると、豊かな社会の実現への道程は厳しく、ゴールは遙か彼方にあるように思えてくる。どこで道を誤ったのだろうか。

同じ敗戦国として焦土と化した国土から見事に復興、発展したドイツと比べた時、その大きな違いに驚く。ドイツ社会では生きるための基本理念は公共精神と倫理観であるという。限られた経験ではあるがドイツ人との交流から、彼らは日本人よりもっと義理・人情を重んじ信頼性を大切にする国民のように感じる。彼らは個人の権利意識は強いと言われるが、同時に社会的責任意識が非常に強いと感じられる。民主国家における国民の権利、義務、責任は等価三角形の関係にあるが、ドイツ人と日

本人を対比した時、義務感、責任感に関して大きな違いがあるように思われる。ドイツでは社会的市場経済制度によって、富裕層に対して税金や社会保障制度等の法律により貧困層への富の再配分が義務づけられているという。難民問題等を巡り不満があるようだが、大多数の国民の豊かさや幸福度の高さを感じる。

米国のトランプ政権は自国の利益を最優先に追求する自国第一主義、現世代第一主義を掲げて当選し、強い国力を背景にそれを実行しようと、世界中に大きな混乱をもたらしている。資本がすべての経済社会を発展させる政策を実施すれば、必然的に大資本のところに富が集中し、所得格差が益々拡大し、社会は不安定化すると考えられるのだが…。

豊かな社会を実現するためには、安全で安心な生活ができる健全な社会の実現が前提であり、誰もが不満を募らせずに努力できる制度作りが不可欠であろう。悲惨な大戦を経験し不戦を誓ったことを忘れたのか自衛隊の海外派遣を拡大し、財政の破綻が危惧される今、大部分の国会議員は唯我独尊、保身のためには国民の不評をかう財政構造改革などはどんどん先送りする。これでは政治に対する不信感が益々募るのみで、先行きが見通せない不透明な時代から脱却できない。日本再興のためのビジョンを示し、実現のために私利私欲を捨て、命を懸ける政治家はいないのか。池澤夏樹氏は「日本の官僚は過去を検証せず、責任を取らず、文書を公開せず、重大な局面では文書さえ残さない。あるいはこっそり破棄する」と言っている（朝日新聞）。国家の中枢が権利、義務、責任を自覚するのが真の豊かな社会の実現に向けての当面の処方箋ということであろうか。（青）